

● 6月27日(火) 晴 新冠幌尻山荘へ入る

・3時に起床。外は晴れているが気温が11℃、寒い！
朝食を軽くすませて3:50に道の駅・新冠を出た。もう周りはすっかり明るい。道道209号線を15km近く走ると分岐があるので、右へ入って新冠川に架かる滑若橋を渡った。ここから始まる新冠川沿いに作られた長い長い林道を走って新冠湖に付いた。新冠ダムを通過してから新冠湖に沿って湖の最奥まで走るとそこにイドンナップ山荘と広い駐車スペースがあり、ここでしっかりとゲートが閉じて通行止めになっていた。ここまでの新冠林道はそれほどダートではなく、けっこう走り易かった。現在5時40分、ここへ到着するまで約2時間かかった。

・昨日入山した人の車と思われる車が2台止まっていたので、その横に私の車を止めた。いよいよこれから幌尻岳めざして入山する。

・幌尻山荘2泊分の食料や生活道具、衣類などを詰めた50Lのバックパックの上に山頂アタック用の装備を詰めたザックを載せて、服を着替えたり登山靴を履いたり準備をしていると、昨夜新冠の道の駅で私の隣に駐車して登山の準備をしていた「大分」ナンバーの車のおじさんがやって来た。「いやあ！おはようございます。幌尻岳へ登るのですか？」「昨日隣で山の準備をしていたので、やはり幌尻山荘へ入るのかと思っていましたよ！」と会話が弾む。



ここから長い林道が始まる



イドンナップ山荘広場に駐車



さあ！ゲートを通して出発

・準備が出来たので6時40分、「一足おさきに！」と、大分のおじさんに挨拶して出発した。いやあ！荷物が重い。30kg近くはあるかな。こんなにデカイザックを背負うのは久しぶり、大学のワンゲル以来だ。足がふらつく。

こんな状態で幌尻山荘までの林道を20kmも歩けるのかな？

それでも、しばらく歩くと意外と慣れて来て何とか行けるぞ。

多少のアップダウンがあるが良く整備された広い新道をしばらく歩くと「ポロシリ山荘まで15km」の標識が目に入った。やれやれ道は間違っていないと一安心。



・さらにしばらく歩くと例の「行くか戻るか決断する橋」と云われる「いこい橋」のゲートに出た。これがまた大変。ザックがゲートを通らないので、ゲートの下から押し込み、体はゲートの回転窓に体をくねらせてやっとゲートを通過した。確かに「行こうか戻ろうか」考えさせられる場所だった。



・這いつくばってザックを背負い直し、気を取り直して山荘に向けて広い林道をひたすら歩いた。そのうちザックの中の何か固いものが腰に当たり出し、痛くて大変。衣類を当てたりエアマットを当てたりして四苦八苦して歩いた。

・さいわい天気は良いうえに気温が低く、アップダウンはあるが林道は良く整備されていて歩きやすいので、77歳の老体に鞭を打って先を急いだ。9時過ぎに「ポロシリ山荘まで10km」の標識を通過、何とか行けそうな気がしてきた。5km毎に出てくる標識が楽しみになって来た。



・うしろから車がやって来た。草刈り作業の作業車とダム関連のRAV4とマツダのSUVが、みんな涼しい顔をして私の横を追い越して行った。

道端に咲く
オカタツナミソウが
疲れた気持ちを和ら
げてくれる。



← 11時に「あと5km」の標識を通過し、
林道を黙々と歩いた。



・12時前に奥新冠ダム湖が見えてきた。
ここまでで計算すると、5kmを1時間40分のペースで歩いてきた。けっこう順調に歩いてきたものだ。



・奥新冠湖の脇をしばらく歩くと「あと2km」の標識、もう少しだ！



足元にはオオバミソホオズキが咲いている。



・ところがここからの2kmが大変だった。

疲れた身体に太陽が照りつけ、おまけにかなりの急坂だ。

あえぎあえぎ、途中で2回も休憩をとり、13時前にやっとポロシリ山荘に辿りついた。

疲労困憊、でもよくここまで来たな。

・三角屋根で古いが小奇麗に使ってあり、2階建の広くてなかなか良い小屋だ。途中で大分のおじさんに抜かれたので私が2番目に着いた。私のすぐ後からもう一人やってきてからはもう誰も来ない。どうも今夜はこの3人で泊まることになるようだ。

大分のおじさんは1階に陣取った。

私ともう一人は2階にそれぞれ離れて陣をとり、寝床を構えた。どうも札幌から来たおじさんらしいが、ほとんどしゃべらず一人ガサガサと何かやっている。



1階に下りて大分のおじさんといろいろ話をして過ごした。気温がどんどん下がってきて寒い。10℃くらいかな。薪が沢山用意してあったので、薪ストーブに火を入れて暖まった。ストーブは良く燃えて部屋全体が暖まったところで、あまりやることもないので明るいうちに夕食をとり、7時前に就寝した。

・でかい荷物を背負って林道を20kmも歩いてきたのでかなり疲れた。山小屋泊まりなんて何年ぶりかな。準備してきたマットを敷いてシュラフに入ったが、ストーブが消えるとたちまち気温が下がり、夏シュラフでは寒くてダメ。ズボンを重ねてはき、長袖にジャンパーを着込んでシュラフに潜り込んだ。

明日は念願の幌尻岳に登る！